

活用事例

活用事例

スマートフォンの機能を活かし 更なる機能拡張を目指す

今後は輸液ポンプの動作状況を離れた場所でも確認できるよう輸液管理システムを新規で連携させる計画があります。パルスオキシメーターの測定結果と合わせて酸素療法条件の入力をするなども検討しており、患者さんの状態チェックに活用していきたいです。また、スマートフォンのカメラ機能や音声入力などを更に活用できれば効率アップになるため、それらの機能を使った拡張ができないか、ニプロ担当者と相談しています。HN LINE は多くの項目追加ができるため、まず最低限必要な機能を導入してから、費用や使用状況を見ながら拡張できます。費用の工面は補助金の活用も視野に入れながら、進めていきたいと思えます。

※ HN LINE[®]は、ニプロ株式会社の登録商標です。

施設概要



1 沖縄協同病院 外観（北西）

2 沖縄協同病院 外観（北東）

施設名：沖縄協同病院

院長：伊泊 広二

所在地：〒900-8558 沖縄県那覇市古波蔵 4-10-55

病床数：280床（ICU8、HCU4を含む）


TEL：098-853-1200（代表）

スタッフ数：815名

診療科目：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、内分泌内科、神経内科、心療内科、脳卒中内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、麻酔科、歯科、口腔外科、脊椎脊髄外科

HN LINE[®]と 血糖測定器をセット導入し、 円滑な情報共有を早期に実現

本資料に関するお問い合わせ：

 **NIPRO** ニプロ株式会社
大阪府摂津市千里丘新町3番26号
(資料請求先)

活用事例のご紹介

沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院



左：玉城淳子さま 右：屋良樹一さま

総看護師長 事務長
玉城 淳子さま 屋良 樹一さま

ニプロの「HN LINE」は「離れた場所でも無線通信によって医療機器情報を速やかにかつ正確に共有」するために生まれたシステムです。医療機器と ICT、IoT の技術を活用し、生産性向上の実現に向けサービスを提供しています。

ニプロ HN LINE を民医連加盟病院として初導入し、血糖測定の POCT 対応機器「ケアファストプロ」と合わせてご活用いただいている沖縄協同病院の総看護師長 玉城淳子さまと事務長 屋良樹一さまに導入経緯や目的、導入までに要した期間のほか、病棟での運用や稼働率についてお話を伺いました。

施設概要と HN LINE 導入の経緯

沖縄協同病院は ICU・HCU を含め、一般病床 280 床を有する沖縄県那覇市の急性期病院。「いつでも、どこでも、だれでも良い医療が受けられるように」との県民の願いを出発点に設立され、現在は沖縄本島南部医療圏の中心的な役割を担う急性期病院として、「無差別平等」と「いのちとくらしをまもる」を理念に医療と看護を実践している。2024 年秋にニプロ HN LINE の導入を決定し、翌年 3 月には現場への配置を完了した。

スマートフォン操作可能で抵抗感なく現場へ浸透

バイタルサイン自動記録システムの導入は 2019 年に案が出ており、情報収集のため県内の他院見学を行うなど前向きな検討を行っていました。他院で評判が良かったため導入に向けて動き出そうとした矢先、新型コロナウイルス感染症の影響により検討は一時中断しました。2024 年になって、病院長が自動記録システムの早期導入・運用開始の声かけを行ったことから、同年秋頃に各病棟師長の意見を参考に各社の製品を比較・検討し、

無線でバイタルサインのデータを電子カルテに送信できる HN LINE の導入を決定しました。血糖測定の POCT 対応機器は他社のものを使用していましたが、HN LINE 導入を機に、機器類接続の相性等も考え、ニプロの POCT 対応機器「ケアファストプロ」へ切り替えました。

HN LINE はスマートフォンで操作でき、デモ実施時も年代を問わずスムーズに操作できていたこと、そして機能拡張の可能性があることが採用の決め手でした。検討に関わった各看護師長から「手元で数値が確認しやすい」「データの一齐送信が便利」など意見がポジティブだったことも決定を後押ししました。導入の最大目的は看護師の業務負担軽減です。重症度の高い患者の入退院が激しくなるなかで、看護師一人当たりの負担が増え、バイタルサインの誤入力も散見されました。導入後は現場へ自然な形で浸透し、現在は 4 階病棟へ 5 台、5～8 階に 10 台ずつ配置。主に病室担当看護師が使用しています。稼働率や電子カルテと連携の相性も良く、ニプロ担当者のフォローも手厚いため、トラブルも発生していません。



専用シールを貼り付けてケースでまとめて運用

看護師へのアンケートでは「いつも」および「だいたい」使用している割合が約 9 割です。「測定しながらケアができるようになった」「使用・操作方法が簡単」などの感想も寄せられています。現場の様子を見に行くと看護師は笑顔で状況説明をしてくれ、働きやすさにもつながっているのかもしれないと感じます。

業務課題改善が実現し 全職種、患者さんに好影響

当院では血圧、体温、脈拍、呼吸のバイタルサイン基本項目、肺機能観察に欠かせない血中酸素飽和度、周術期や治療評価に必要な血糖測定値結果をカルテに自動入力する項目として設定しました。項目はカスタマイズできるため、当院に合わせて設定してもらっています。数値は自動入力のため間違いがなく、迅速に経過表に反映できるため院内で患者情報の共有がスムーズになりました。以前は看護師が測定結果を手作業で電子カルテに入力していたため、他職種に情報が伝わるまでにタイムラグが生じる、誤入力の発生で数値の信頼性が下がるなどの課題がありました。HN LINE 導入により、リハビリ開始前にセラピストが直近の状態を確認できる、医師がリアルタイムでバイタルサインを確認できるなどメリットが生まれました。

血糖測定の POCT 対応機器「ケアファストプロ」もスムーズに導入でき、今ではなくてはならないシステムです。血糖は急性期の病状や治療に伴い変動が激しく、多い患者さんでは 1 日 4 回測定し、その結果によってインスリン注射を行うなど治療が必要です。患者さんの血糖の様子が電子カルテにすぐ反映されると主治医が状態把握しやすいため助かっています。通信による数値の自動入力の実現し、医療安全、数値の信頼性が向上したことにより、全ての職種と患者さんにメリットがあったと思っています。また、血糖のデータ送信と測定器の充電を同時に行えるので省スペース化し、導線がスムーズになりました。

導入決定から約 5 カ月で配置 看護職新規採用の PR にも活用

当院では病院独自の電子カルテを使用しており、院内の情報分析室に SE が常駐しています。院内ではカルテへのデータ転送がスムーズか、表示が正確にできるかを入念に確認しました。電子カルテとの連携調整が円滑に進み、素早く導入できました。そのほか、迅速に現場説明会の実施が実現したことや、ニプロ担当者が現場や事務の意見を元にきめ細やかな調整や具体的な提案をしてくれたため、想定された準備期間よりスピーディーに導入できました。

早期導入が実現し、2025 年の看護部の新採用者オリエンテーションに間に合ったこと、次年度の採用活動に向けて就職説明会で当院の PR ポイントとして使えたことがありがたく感じました。どの病院でも人手不足は大きな問題です。しかし今後も職員、特に看護師は確保が難しい状況が続くことが予想されます。医療 DX に前向きな姿勢であることは働きやすさに力を入れる病院であることを伝えられるため、今後も業務改善のため積極的に活用を続けていきたいです。



クレードルで保管することで省スペース化を実現

